

令和3年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日時: 2021年6月9日(水) 13:00~16:30

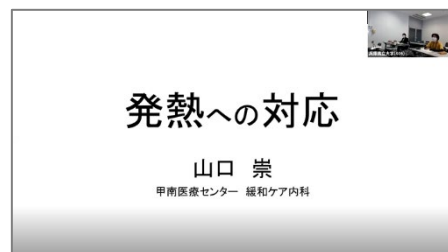
場所: 兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)

テーマ: がん治療・緩和に関する臨床推論 1、2
がん病態の鑑別診断、高度実践看護に活かす臨床推論:がん治療・緩和に関する臨床推論の基本的な考え方を抑え、発熱、意識障害、倦怠感の原因診断など

講師: 山口 崇先生(甲南医療センター緩和ケア内科部長)

受講者: 7名(うち学外5名)

主催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 川崎 優子



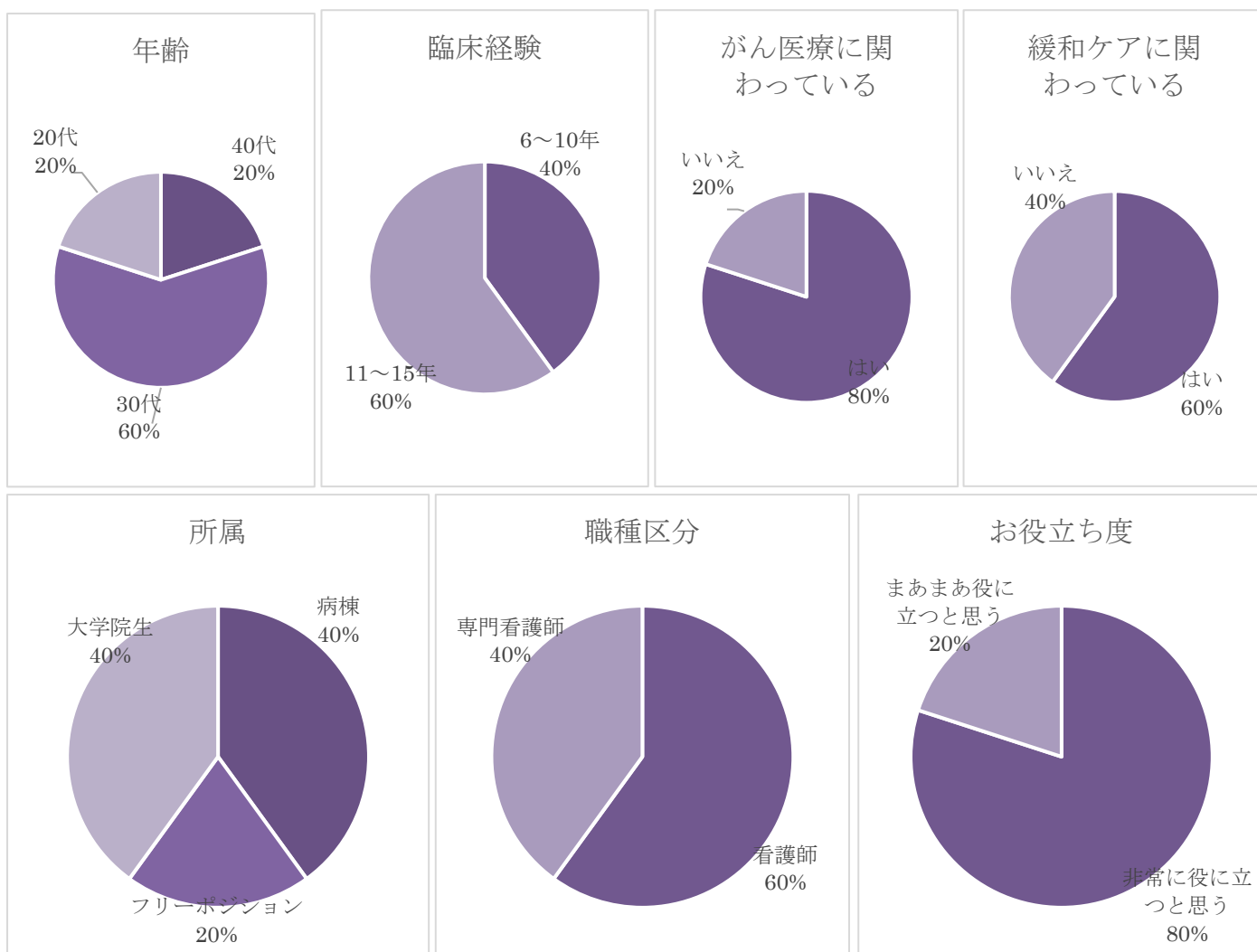
<概要>

甲南医療センター緩和ケア内科部長 山口 崇先生による、緩和医療学概論特別講義「がん治療・緩和に関する臨床推論 1、2」として、がん病態の鑑別診断、高度実践看護に活かす臨床推論(がん治療・緩和に関する臨床推論の基本的な考え方を抑え、発熱、意識障害、倦怠感の原因診断など)の講義でした。

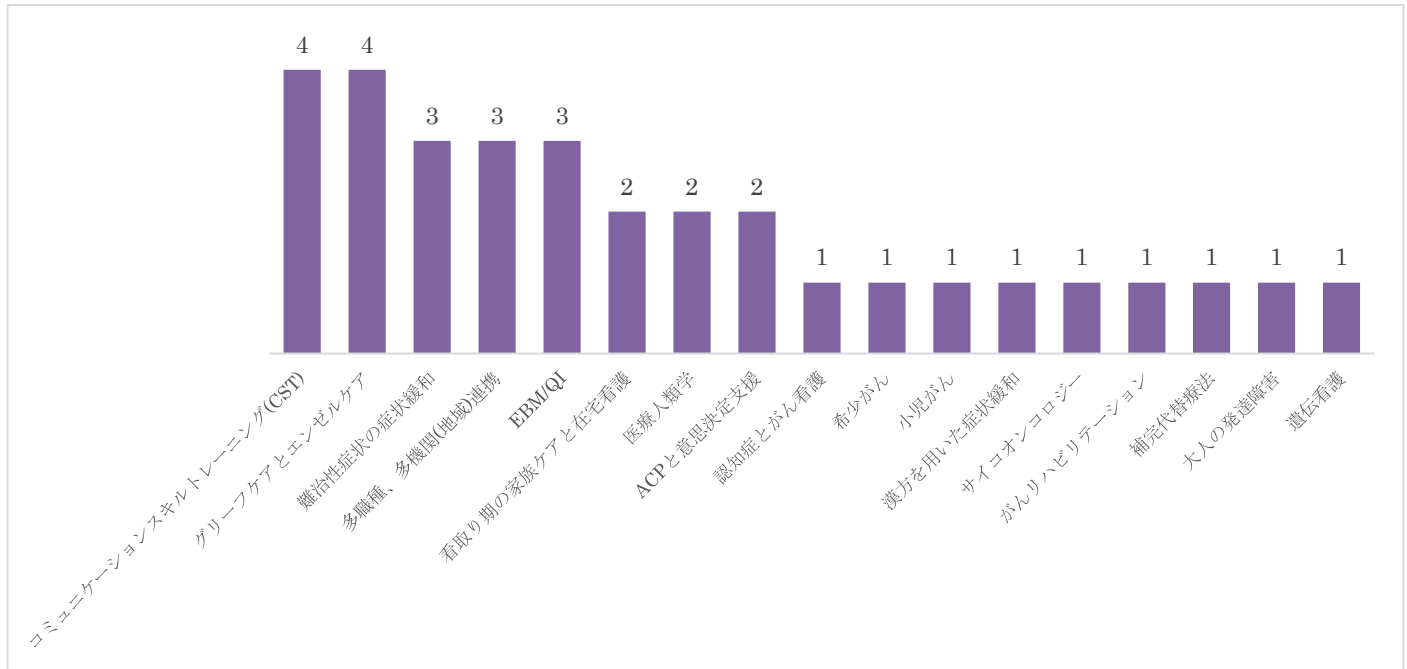
「熱が出た」「しんどい」という現象から、緊急を要するのはどのような場合か、考える可能性や想定される事象、医者が来るまでに看護師としてできる検査や確認事項、対応は何かといったことなど、具体的な事例をもとに、参加者の意見も交えての講義となりました。毎日の対応の中にも、足りなかった視点、すぐできること、最優先にすべきこと、基本に立ち返ること、看護師としてプロフェッショナル意識を持つ姿勢の大切さを改めて再認識した時間となりました。

<アンケート結果>

●参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・まずは身体初見とVSをしっかりとること、鑑別すべき疾患を念頭において背景をたどること
- ・医師の思考過程を学ばせてもらったが、それをどうケアに活かすかが課題と感じた。検査を一つするにしても、それが患者さんの必ずしもメリットに繋がらないこともあるので、検査をしないという選択肢もある。そのときに看護として何ができるか、何をするかを考えなければいけないなと感じました。
- ・見逃してはいけないものと少し待てるものを分けて考えて、見逃してはいけないものから除外できるよう観察すること。症状に出くわしたときにすぐにその対応ができるように日ごろから頭の中を整理しておかないといけないなと思いました
- ・臨床推論は看護師にとって重要なことだと再認識しました。医師との連携には、医師への伝え方も病態やアセスメントをしたうえで伝えることが患者にとってより効果的な治療や看護に結びつくと思いました。
- ・どのような症状を呈している患者に対しても、臨床推論のプロセスで身体状態をアセスメントしていくことは臨床において非常に重要であると改めて気づかされました。

▼がん治療・緩和の臨床において、今最も強く感じている課題をお書きください。

- ・どこまで検査をするのか、治療（緩和的な介入も含め）をするのか、これからの過ごし方、目指すところをどう患者さんと医療チームで共有していくか
- ・特に緩和ケアのフィールドでは、患者だけでなく医療者の価値観が色濃く出てしまう。その価値観の共有、すり合わせが難しいと日々感じています。
- ・臨床推論

▼ご意見、ご感想がありましたら、お願いします。

- ・山口先生の講義は面白く楽しく学べました。ありがとうございました。